

平成 29 年度 新国立劇場 地域招聘オペラ公演

～びわ湖ホール～

「ミカド」

THE MIKADO

【全2幕＜日本語上演／日本語・英語字幕付＞】

2017年8月26日(土) 16:00 開演 ・ 27日(日) 14:00 開演
全2回公演 新国立劇場中劇場

ココどこ？ニッポン？

～ヒノイズルクニを舞台に繰り上げられる奇想天外抱腹絶倒歌劇～

新国立劇場では、平成17年度から現代舞台芸術に関する地域交流事業として、全国各地のすぐれた作品を新国立劇場との共催で上演する「地域招聘公演」を行ってきました。平成29年度は、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの『ミカド』を招聘します。

びわ湖ホールは、1998年の開館以来、国内外の優れた舞台芸術を提供するとともに、劇場独自の創造活動の核となる劇場専属声楽家集団「びわ湖ホール声楽アンサンブル」を設立して、オペラをはじめとする舞台芸術作品を自主制作しています。

イギリスのコミック・オペラの名コンビ、ウィリアム・ギルバート(台本)とアーサー・サリヴァン(作曲)の代表作『ミカド』は、当時ヨーロッパで流行したジャポニスム(日本趣味)に触発された作品で、19世紀末のロンドンで大変な人気を博しました。今回演出を手がける中村敬一の訳詞による上演で、ロンドンのミュージカルの元祖ともいわれる軽妙洒落な作品を気楽に楽しんでいただけます。

”創造する劇場“としてびわ湖ホールがこれまで育んできた、オリジナリティあふれるプロダクションにご期待ください。

☆【プレトーク・マチネ】 2017年7月9日(日)13:00～ 新国立劇場 オペラパレス ホワイエ
作品の背景や音楽について、指揮者・演出家の解説と歌手による演奏を交え、聴きどころや見どころを紹介します。

出演： 園田隆一郎(指揮者)、中村敬一(演出家) ほか

参加費：1,000円(公演チケット提示の方は無料)

※事前申込不要。当日会場にお越しください。

<写真、資料のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場制作部 オペラ広報 滝本香、高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709

e-mail:takimoto_k1632@nntt.jac.go.jp, takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

■本公演のポイント

♪びわ湖ホールの自主制作オペラ、4年ぶりに新国立劇場に登場！

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールは、西日本初の4面舞台を備える本格的な劇場として1998年9月に開館し、今年で開館19周年を迎えます。「創造する劇場」として特色ある自主制作公演を行い、オペラ・コンサート・演劇・ダンス・古典芸能など多彩なジャンルの公演を実施しています。特にオペラに関しては、<びわ湖ホール プロデュースオペラ>、<沼尻竜典オペラセレクション>、<びわ湖ホール オペラへの招待>シリーズとして年4本の公演を自主制作し、そのクオリティの高さはこれまで国内外で高い評価を得てきました。新国立劇場でのオペラ公演は2013年7月に中劇場で上演した「三文オペラ」以来、4年ぶりとなります。

「ミカド」は来る8月5日、6日にびわ湖ホールで上演する<びわ湖ホール オペラへの招待>シリーズとして新制作するものです。このシリーズでは、オペラは初めてという方にも親しみやすい作品を、びわ湖ホール声楽アンサンブルをキャストに配して上演しています。開館以来、オペラの裾野を広げるべく取り組んできたオペラ制作のノウハウを活かし、びわ湖ホールならではの舞台を披露します。

♪びわ湖ホールが誇る専属声楽家集団によるオペラ公演

キャストを務めるびわ湖ホール声楽アンサンブルは開館の年に設立された、日本初の公共ホール専属の声楽家集団です。厳しいオーディションを経て全国から集まったメンバーたちは、ホールの自主制作オペラ公演へ出演するほか、定期公演では宗教曲や合唱曲など様々な作品に取り組んでいます。「ミカド」はその声楽アンサンブルをキャストに配し、日本全国で数多くのオペラ演出を手がける中村敬一の演出、イタリアを中心にヨーロッパで目覚ましい活躍を見せる園田隆一郎の指揮、さらに関西きっての実力派オーケストラ・日本センチュリー交響楽団による演奏でお贈りします。これまでの<オペラへの招待>シリーズの集大成ともいえる布陣で、びわ湖ホールならではの最高の舞台をお届けします。

♪おかたくない！“コミック・オペラ”を日本語で親しみやすく

全編を通して軽快な音楽とコミカルな登場人物たちによって描かれるコミック・オペラ「ミカド」。ニッポン？を思わせる国で繰り広げられる男女の色恋沙汰と、とんちんかんな政治劇をなんともユーモラスに描いた作品で、身構えることなく気軽にお楽しみいただけます。

近年の日本では上演機会の少ないこの作品を、本公演の演出家・中村敬一による日本語訳詞で新制作いたします。

♪19世紀に流行したジャポニスムに触発された作品を、2017年・関西版の演出で

「ミカド」はその名が示す通り、日本をモチーフとしたオペラです。19世紀末の英国では日本展等の影響を受けて“ジャポニスム”が流行し、さらに人気絶頂の作者たちによるオペラということで人気を博しました。明るい音楽とコミカルなストーリーが支持され、今なお当地ではしばしば上演されています。

しかしながら登場人物の役名が「ナンキプー」や「ヤムヤム」といった中国風、東南アジア風であることや、「ミカド」が残虐な暴君として描かれていることなどに対して、違和感を覚える人も少なくないかもしれません。そうした事情があったためか、この作品は戦前の日本では上演されず、日本初演は1946年に行われたGHQ主催による公演だとされています。会場は米軍が接收した劇場で、日本人が観客として立ち入ることは禁じられていました。実のところ、「ミカド」は英国社会を風刺したコミック・オペラであって、日本を揶揄する意図はなかったとされています。

東京では、びわ湖ホールでの上演を経てさらに熟した「ミカド」をご覧ください。関西の劇場から発信する公演ならではの演出にもご期待ください。

■『ミカド』 あらすじ

皇太子ナンキプーは、1年前、お忍びでティティプーの町へ出向くと、かわいい娘ヤムヤムと恋に落ちた。が、彼女は後見人であるココと婚約していることを知り、町を去る。しかし、ココがいちゃつき罪で死刑になると聞き、再びナンキプーは町にやってくる。が、ココは死刑執行人になっており、自分自身を死刑にはできないというわけで、死刑は執行中

止に。その時、ミカドよりこのところ死刑がないので4週間以内に死刑がなければ死刑執行人は免職としティティブーは町から村に格下げ>とおふれが。もし、死刑執行人の職を失うなら、いちど免れた死刑になるべきだと言われ困ったココは、ヤムヤムと結婚できないことに絶望して自殺を思いつナンキプーに、自殺するくらいなら身代わりに死刑になってくれないかと持ちかける。ナンキプーはその代わりにヤムヤムとの仲を1ヶ月間許してくれるならと提案、ココはしぶしぶ承諾。そこにナンキプーの婚約者、年増の醜女カティーシャが現れ秘密を暴露しようとし大騒ぎになるが、こんどは、死刑になった男の妻は生き埋めにされるという法律があるのが分かり、ヤムヤムは怯える。荒唐無稽な法律で翻弄され、困ったココはナンキプーとヤムヤムを逃がしてナンキプーに死刑を執行したと嘘をつく。町にミカドがやってきたのでココ、プーバー、ピッティシングらは死刑執行の様子をでっちあげ口々に説明するが、実はミカドは放浪中の皇太子を捜しにきたのだった。カティーシャがナンキプーが皇太子だと暴露するので、死刑執行証明書にその名を見つけたミカドはココらを処刑することに。そこへ二人きりで結婚式を挙げたナンキプーとヤムヤムがやってくる。ココはすべてを白状し、ナンキプーとヤムヤム、カティーシャもココと結ばれ、大団円となる。

■プロフィール

【指揮】園田隆一郎

SONODA Ryuichiro

東京藝術大学音楽学部指揮科、同大学大学院修了。2006年、シエナのギジアーナ夏季音楽週間『トスカ』でデビュー。翌年、藤原歌劇団『ラ・ボエーム』で日本デビュー。以後国内外のオペラへの出演、オーケストラとの共演を重ねている。近年では、15年にフランダース・オペラ『アルミーダ』、トリエステ歌劇場『愛の妙薬』およびクリスマス・コンサートに出演し好評を博した。17年は、びわ湖ホール『連隊の娘』をはじめ、日生劇場『ラ・ボエーム』、藤沢市民オペラ『トスカ』、「NHKバレエの饗宴 2017」などの各公演に出演予定。今後の活躍が期待されている。藤沢市民オペラ芸術監督。



【演出・訳詞】中村敬一

NAKAMURA Keiichi

武蔵野音楽大学、同大学院で声楽を専攻。卒業後、舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属してオペラスタッフとして活躍。ウィーン国立歌劇場にてオペラ演出を研修し、帰国後、数々のオペラ演出を手がけながら、声楽家の育成、オペラの普及に尽力している。びわ湖ホールでは『森は生きている』『魔笛～まほうのふえ～』『天国と地獄』『ルサルカ』をはじめとするくびわ湖ホール青少年オペラ劇場くびわ湖ホール オペラへの招待シリーズのほとんどの演出を手がけ、音楽的な視点と豊かな感性による誰もが親しめる舞台づくりは高い評価を得ている。



【管弦楽】日本センチュリー交響楽団

Japan Century Symphony Orchestra

1989年に活動を開始し、首席指揮者に飯森範親、首席客演指揮者にアラン・ブリバエフを迎えて多彩な活動を行っている。ザ・シンフォニーホールでのシンフォニー定期演奏会、ハイドンの交響曲全曲演奏・録音プロジェクト「ハイドンマラソン」(いずみ定期演奏会)、豊中市立文化芸術センターでの名曲シリーズ、さまざまな地域での特別演奏会に加え、「エンジョイ・センチュリーシリーズ」ではジャンルを超えたコンサートも行っている。オーケストラ体感コンサート「タッチ・ジ・オーケストラ」をはじめ教育プログラムや地域連携事業にも力を入れている。

びわ湖ホール声楽アンサンブル

BIWAKO HALL Vocal Ensemble

監修：沼尻竜典(びわ湖ホール芸術監督)／専任指揮者：本山秀敏

びわ湖ホール独自の創造活動の核としてびわ湖ホール開館の年の1998年3月に設立。ソリストとしての実力は言うまでもなく、アンサンブル、合唱の中核となり得るバランスのとれた声楽家により構成されている。びわ湖ホール自主公演への出演を主な活動とする一方、音楽の普及活動も積極的に行っており、日本初の公共ホール専属声楽家集団として各方面からの注目を集めている。過去在籍したメンバーは総勢50名にのぼり、在籍期間を終了した後は「ソロ登録メンバー」として、数多くのコンサートやオペラに出演するなど幅広く活躍している。2013年第26回大津市文化賞受賞。

■公演概要

タイトル	平成 29 年度 新国立劇場 地域招聘オペラ公演 びわ湖ホール「ミカド」(全 2 幕 / 日本語上演 / 日本語・英語字幕付)
主催	滋賀県、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、新国立劇場
企画・制作	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
作品・スタッフ	作 曲: アーサー・サリヴァン 台 本: ウィリアム・S・ギルバート 指 揮: 園田隆一郎 演出・訳詞: 中村敬一 美 術: 増田寿子 照 明: 山本英明 衣 裳: 下斗米雪子 振 付: 佐藤ミツル 音 響: 押谷征仁(滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール) 舞台監督: 牧野 優(滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール)
出演	びわ湖ホール声楽アンサンブル <ミカド> 松森 治 * <ナンキプー> 二塚直紀 * <ココ> 迎 肇聡 * <プーバー> 竹内直紀 * <ピシュタッシュ> 五島真澄 <ヤムヤム> 飯嶋幸子 <ピッティシング> 藤村江李奈 <ピープポー> 山際きみ佳 <カティーシャ> 船越亜弥 <貴族・市民> 平尾 悠、溝越美詩、益田早織、 吉川秋穂、川野貴之、島影聖人、 増田貴寛、内山建人、宮城島 康 * びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー
管弦楽	日本センチュリー交響楽団
会場	新国立劇場 中劇場
日程	2017 年 8 月 26 日(土) 16:00 開演 15:30 開場 8 月 27 日(日) 14:00 開演 13:30 開場
料金(税込)	S 席:10,800 円 A 席:8,640 円 B 席:6,480 円 C 席:5,400 円 Z 席:1,620 円(当日のみ販売)
チケット取り扱い お問い合わせ	びわ湖ホールチケットセンター TEL: 077-523-7136 新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999

■びわ湖ホール オペラへの招待 公演履歴

W.A.モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」(イタリア語上演)

2007年3月21日(水・祝)

J.シュトラウスⅡ世／喜歌劇「こうもり」(日本語上演)

2007年7月16日(月・祝)

G.ビゼー／歌劇「カルメン」(フランス語上演)

2008年8月10日(日)

C.ウェーバー／「魔弾の射手」(ドイツ語上演)

2009年7月20日(月・祝)

P.マスカーニ／歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」(イタリア語上演)

R.レオンカヴァッロ／歌劇「道化師」(イタリア語上演)

2010年7月23日(金)・25日(日)

同時上演

E.フンパーディンク／歌劇「ヘンゼルとグレーテル」(日本語上演)

2010年12月18日(土)・19日(日)

O.ニコライ／歌劇「ウインザーの陽気な女房たち」(ドイツ語上演)

2011年7月17日(日)・18日(月・祝)

W.A.モーツァルト／歌劇「魔笛 ～まほうのふえ～」(日本語上演)

2011年10月8日(土)・9日(日)

林 光／オペラ「森は生きている」(日本語上演)

2012年6月30日(土)・7月1日(日)

K.ワイル／「三文オペラ」(日本語上演)

2012年10月6日(土)・8日(月・祝)

★平成25年度新国立劇場地域招聘オペラ公演 K.ワイル／「三文オペラ」(日本語上演)

2013年7月12日(金)・14日(日) 会場:新国立劇場 中劇場

J.オッフェンバック／「ホフマン物語」(フランス語上演)

2014年2月9日(日)・11日(火・祝)

R.ワーグナー／「ラインの黄金」(日本語上演)

2014年7月19日(土)・21日(月・祝)

J.オッフェンバック／「天国と地獄」(日本語上演)

2015年1月10日(土)・12日(月・祝)

A.ドヴォルザーク／歌劇「ルサルカ」(日本語上演)

2015年12月12日(土)・13日(日)

W.A.モーツァルト／歌劇「フィガロの結婚」(イタリア語上演)

2016年3月26日(土)・27日(日)

J.マスネ／「ドン・キホーテ」(フランス語上演)

2016年8月6日(土)・7日(日)

G.ドニゼッティ／「連隊の娘」(フランス語上演)

2017年2月11日(土・祝)・12日(日)

■新国立劇場 地域招聘公演 公演歴

(オペラ公演)

- 平成 17 年度 松村禎三／「沈黙」(ザ・カレッジ・オペラハウス)
指揮:山下一史 演出:中村敬一 2005 年 9 月 16 日(金)・18 日(日)
- 平成 18 年度 W.A.モーツァルト／「フィガロの結婚」(ひろしまオペラルネッサンス)
指揮:デリック・イノウエ 演出:岩田達宗 2006 年 10 月 15 日(日)
- 平成 19 年度 R.シュトラウス／「ナクソス島のアリアドネ」(関西二期会)
指揮:飯守泰次郎 演出:松本重孝 2008 年 1 月 25 日(金)・27 日(日)
- 平成 21 年度 C.オルフ／「月を盗んだ話」(札幌室内歌劇場)
指揮:柳澤寿男 演出:中津邦仁 2010 年 1 月 13 日(水)・14 日(木)・16 日(土)・17 日(日)
- 平成 23 年度 岡崎光治／「鳴砂」(仙台オペラ協会)
指揮:山下一史 演出:岡崎光治 2011 年 7 月 30 日(土)・31 日(日)
- 平成 25 年度 K.ワイル／「三文オペラ」(びわ湖ホール)
指揮:園田隆一郎 演出:栗山昌良 2013 年 7 月 12 日(金)・14 日(日)
- 平成 27 年度 錦かよ子／「いのち」(長崎県オペラ協会)
指揮・演出:星出 豊 2015 年 7 月 25 日(土)・26 日(日)

(バレエ公演)

- 平成 20 年度 「アンナ・カレーニナ」(法村友井バレエ団) 2009 年 1 月 11 日(日)・12 日(月・祝)
振付:A.プロコフスキー 音楽:P.チャイコフスキー(編曲:G.ウールフェンデン)
- 平成 22 年度 「角兵衛獅子」(新潟シティバレエ) 2010 年 12 月 19 日(日)
振付:橘秋子 ステージング:渡辺珠実 音楽:山内正
- 平成 24 年度 (貞松・浜田バレエ団) 2013 年 1 月 12 日(土)・14 日(月・祝)
Aプログラム:「くるみ割り人形」振付:M.プティパ/L.イワノフ 改訂振付:貞松融／浜田蓉子
音楽:P.チャイコフスキー
Bプログラム:「6DANCES」振付:I.キリアン 音楽:W.A.モーツァルト
「Memoryhouse」振付:森優貴 音楽:M.リヒター／A.バラネスク／P.ヴァスクス
「DANCE」振付:O.ナハリン 音楽:L.アルメイダ 他
- 平成 26 年度 「Color of Dance」(榎笠バレエ団)振付:メメット・バルカン 2015 年 1 月 11 日(日)
「バッハ・ア・ラ・トゥルカ」音楽:J.バッハ、バッハ・アレンジメント
「ビトウイーン・トゥー」音楽:E.アルダル
「ムハメドフ」音楽:W.A.モーツァルト
「黒と白」音楽:E.アルダル
「彩の彼方」音楽:E.アルダル